



## 解 題

河原 昌一郎

(農林水産政策研究所)

### 1. 中国の農民層分解

農民層分解は、資本主義的商品経済が農業農村に浸透することによって発生するほぼ必然的な現象である。

農業経営に競争原理が持ち込まれること等によって、経営規模を拡大・上昇させる農家がある一方で経営規模を縮小させて没落・プロレタリア化する農家が生じるといういわゆる両極分解が農民層分解論での基本的理解であろうが、我が国の戦前において「中農標準化傾向」<sup>(1)</sup>が説かれ、戦後は土地持ち兼業労働者が増加したように、農民層分解の現実的な現れ方は国や時代背景によって一様ではない。これは、農民層分解の基本的要因としては、農業内部の経営間の生産性格差および農外の労働力需要の増加の2つが考えられるが、この事情が国または時代によって異なるためである。

中国の農民層分解は、改革開放後に全国に普及した農家請負経営を基点とするものであり、まさに中国特有の事情を背景としている。改革開放前の人民公社期にあっては、全ての農民は等しく人民公社の社員であり、農民層分解が起こる余地はなかった。

農家請負経営においては、農家は土地所有者である村民委員会等<sup>(2)</sup>から農地の経営を請け負い、村民委員会等には請負料の支払い等の義務を負う。請負農地の分配は農家を単位として、多くの場合、原則として家族の人数割りで実施された<sup>(3)</sup>。農家請負経営は、農家による自主的

な農業経営とともに、自己の意思で自身が保有する労働力を他産業に用いることを可能とし、農民層分解のための必要条件を整備するものでもあった。

農家請負経営の普及によって、中国では、ほぼ均一な経営規模の農家が全国に現出することとなった。このため、農業内部の経営間の生産性格差はもともと極めてわずかなものであり、また、農地が公有であって自由な処分はできないこと、中国政府が現在の農家請負経営の安定を何よりも重視したこと等から、経営間の競争による農民層分解はこれまであまり大きなものではなかったとして良いであろう。そもそも中国の農業統計では経営規模別の農家数の統計はとられておらず、農家経営規模に対する中国政府の関心はそれほど強いものではない。したがって、中国の農民層分解に関する研究においても、農家経営規模の動向を直接の対象とした研究は見られない。

ただし、農民層分解の観点からは、最近では、2007年1号文件<sup>(4)</sup>で見られるように、近代農業を担う「新型農民」の育成が目ざされるようになってきていることに留意しておきたい。

中国の農民層分解に、これまで決定的に重要な役割を果たしてきたのが、農外の労働力需要の増加である。中国の農民層分解に関する研究は、主としてこの観点からのものである。

農民が他産業に就業することによって、農民層は農民と労働者とに分解を始める。多くの国でそうであったように、農民の労働者への分解の進行は、都市住民または都市労働者を増加させ、農村住民または農業従事者を減少させる。我が国のような土地持ち兼業労働者の増加であっても、農村住民はあまり減少させないかもしれないが、農業従事者は減少

させている。

中国では改革開放後、極めて高い経済成長が続き、農外労働力の需要には旺盛なものがあつた。このため、多数の農民が都市にある企業に就職した。

ところが、中国の現実の農民層分解は、単純に農民と労働者への分解というようには進まず、極めて特殊で矛盾の多いものとなった。そして、このことが中国の経済社会の発展の重大な障害となっている。

収録論文(黄祖揮等主編『中国「三農」問題 理論、実証および対策』(浙江大学出版社2005年)に掲載されたもの。)は、この問題について焦点を当てたものである。

## 2. 伝統農民と都市農村二元構造

収録論文では、分解されずに従来のままの状態に滞留している農民を伝統農民という用語でとらえている。

中国で「農民」と言う場合、一般的には農村戸籍を有する者のことを言う。都市に就業した場合であっても、戸籍管理制度があるために都市に戸籍を移すことはできず、農民としての地位にとどまる。伝統農民とは、こうした農民のうち、近代的生産方式を用いて農業の商品的生産に従事する近代農民(前述の「新型農民」と基本的に同義であろう。)と、農業分野から転出して非農業の生産経営に従事する都市定住者とを除外したものとされている。

一方で、伝統農民には、地域を越えて流動する約1億人の「農民労働者」〔農民工〕が含まれる。大量の農民労働者の存在こそが中国で現実に進行しつつある農民層分解の大きな特色をなすものであろう。

農民労働者は都市で第二、三次産業に就業しているのであるが、一部の例外を除き、戸籍管理制度によって都市に定住することができず、都市で各種の行政サービスを受けるにも制約がある。しばらく都市で就業した後は農村に帰ることを想定しているため、農村での請負農地に関する権利は手放さない。ただし、農村での労働力は彼らがいなくても必ずしも不足しているわけではない。すなわち、農民労働者は流動人口としての形態をとる農村の相対的過剰人口ということができよう。農外の職業に従事していても身分はあくまで農民であり、農村に帰れば従来どおり農業に従事するのであって、伝統農民からの分解は終わっていないのである。

収録論文は、こうした伝統農民に関する問題を、大きく3つの部分に分けて論述している。

1つめの部分は「伝統農民の分解の停滞：中国の近代的経済強国への道の深層的制約」というタイトルであり、伝統農民の滞留の現状とともに、伝統農民の滞留が経済社会の各分野の発展の制約になっていることを具体的に指摘している。

2つめの部分は「都市農村二元構造：伝統農民の分解の停滞の深層原因」というタイトルである。伝統農民の分解が進まない主たる要因を都市農村二元構造に求めており、本論文の本質的部分でもある。この中で問題とされている制度は、土地経営制度、土地徴用制度、戸籍管理制度、収入分配制度、労働就業制度、社会保障制度の6つである。これらの制度においては、いずれも農民が差別的に扱われており、都市農村二元構造の内容を具体的に示すものとなっている。都市農村二元構造は、伝統農民を広範に滞留させているだけでなく、農民の貧困の直接的な原因と

もなっているものである。

3つめの部分は「都市農村の統一的発展：伝統農民の分解と終結のための基本戦略」というタイトルで、伝統農民の分解を促進するための具体的な方策を述べたものである。いずれにしても、現在の都市農村の差別的発展戦略を変更するということが、各種の方策の前提となっている。

収録論文の主張は、中国の経済社会の健全な発展のためには、伝統農民を産業労働者、都市住民、近代農民へとスムーズに分解させることが適当であり、それを妨げているのが都市農村の二元体制であるため、この体制を打破することが必要だと言うにあらう。ただし、もとよりこの体制が一朝一夕にして変革され得るというものではない。その矛盾の大きさと深刻さは本論文の示すところである。伝統農民に関する矛盾は、中国の経済社会全体の矛盾でもあるということをおぼろげに確認しておきたい。

注：

- (1) たとえば、栗原百寿(1943)『日本農業の基礎構造』中央公論社。
- (2) 中国の農村土地は公有であって、所有者は農民集団とされているが、現実的には村民委員会等によって代表される。
- (3) 農家請負経営の詳しい内容については、河原昌一郎(2005)「中国の土地請負経営権の法的内容と適用法理」『農林水産政策研究』No.10等を参照。
- (4) 中国共産党中央から各年の最初に発出される政策的文書。

## 伝統農民の終結を加速：WTO 加盟後の中国の“三農”問題の焦点

顧益康（浙江大学）、邵峰（浙江省農業農村工作弁公室）

河原 昌一郎 訳

今世紀の初めは、中国がまさに計画経済体制から市場経済体制へと全面的に軌道を変え、伝統的農業社会から近代的工業社会へと転身し、低収入国家から中低収入国家へと移行するための重要な時期に当たっている。この時期に中国は WTO に加盟したが、このことは中国の経済社会の発展に多くの新しいチャンスとチャレンジをもたらすだけでなく、全中国の近代化過程に大きな影響を与えることとなる。世界各国の発展および近代化の歴史から明らかとなり、一国家の近代化過程は市場化、国際化、工業化、都市化および民主化の水準のたゆまぬ向上の過程であり、また、伝統農業から近代農業への移行、伝統的農村居住区から都市居住区と近代的農村居住区への移行、伝統農民から近代市民と近代農民への移行の過程であって、本質的には伝統農民が絶えず分業分解する過程である。中国は伝統農民が人口の大多数を占める最大の発展途上国であり、“三農”問題の解決が近代化の過程における最も困難な任務となっている。伝統農民の終結は、その中でも最も根本的な任務であり、中国が WTO 加盟後に経済強国を建設し、近代化を加速する過程での焦点となる問題である。

### 一、伝統農民の分解の停滞：中国の近代的経済強国への道の深層的制約

伝統農民は1つの歴史的類型であり相対的概念である。世界工業革命後、工業化、都市化の進展および伝統的農業の近代的農業への移行に伴い、農民は分解を始め、一部の農民は第二次、三次産業の生産者、経営者または都市市民となり、一部の農民は近代的農業の生産経営者となったが、近代農民、伝統農民という概念はこれとともに出現したものである。一般的意味での伝統農民は、工業化、都市化の外に取り残されている社会集団であり、この社会集団は依然として農村を居住地とし、先祖伝来の生産要素、生産手段を用いた自給または半自給の伝統的農業を生活手段としている。

本稿での伝統農民は、中国の現段階の工業化、都市化、市場化、国際化の急速な進展の中で、都市農村の二元経済社会構造を突破できずにまだ伝統的農業に従事しているか、それとも非農業には従事するが分業が不十分でまだ都市に定着できない膨大な社会集団を指すものとする。この社会集団は、中国の統計年鑑中の“農業人口”から以下の2グループを除去したものと概ね一致する。1つめは、一定の近代技術および生産方式を用い専ら農業の商品的生産に従事するグループ、すなわち近代農民。2つめは、農業分野から転出し、非農業の生産経営に従事し、都市に定着しているグループである。現段階において、中国の伝統農民の分解が停滞し、その数が多すぎることで、経済競争力を高めて経済強国を建設する上での最大の制約要因となっているのである。

#### （一）伝統農民の分解の停滞が農業競争力向上を制約

WTO 加盟によって、中国農産物はさらに開かれた広い国際市場と向き合い、さらに大きな範囲で高次の激しい市場競争に直面することとなっ